

第23回中国環境問題研究会

- 日時 2011年1月21日(金) 16:00-18:00
- 場所 総合地球環境学研究所 セミナー室3・4
地下鉄烏丸線で「国際会館」下車、同駅前バス乗り場「2」から 京都バス40系統(京都産業大学前ゆき)、または50系統(市原ゆき)に乗り、「地球研前」下車
アクセスマップ <http://www.chikyu.ac.jp/rihn/access/index.html>
- 言語 中国語・日本語(逐語訳)

報告

張 芸蘊 (雲南省健康与発展研究会)

雲南省DY県におけるアスベストの健康被害

張 学曾 (雲南省健康与発展研究会)

洱海漁村の変化に対する自然環境の影響の評価 —雲南省の漁村におけるケーススタディ

コメンテーター

川端 善一郎 (総合地球環境学研究所)

※終了後に懇親会を予定しております。

- 主催 総合地球環境学研究所 中国環境問題研究拠点(代表:窪田 順平)
- 問合せ先:
松永 光平(総合地球環境学研究所・中国環境問題研究拠点研究員 matsunaga@chikyu.ac.jp)

要旨：

雲南省 DY 県におけるアスベストの健康被害

張芸蘊（雲南省健康与発展研究会）

アスベストは国際がん研究機関（IARC）、米環境保護庁（EPA）、WHO 公認の発がん物質である。中国国内外のいくつかの研究のほとんどは、職業上アスベストに被曝する労働者に着目しており、低濃度のアスベストの環境曝露についてのレポートは少ない。雲南省の大姚県の一部地域では青石綿（以下、クロシドライト）が地表に露出している。20 世紀の 50~80 年代、現地住民は自由にクロシドライトを含む粘土からで石綿炉を作ったり、道路や壁を塗ったりしていた。さらに農耕活動も、クロシドライトで現地の環境を汚していた。クロシドライトは、大気だけでなく、水も汚染する。そのうち、生活用水、飲用水の汚染とそれがもたらす健康被害の問題に関して、日増しに人々の関心が大きくなっている。中国国内の学者は大姚県のクロシドライトが露出する地域で系統的な研究をし、政府に対して被害を小さくする方策、措置について提言した。10 年余りの努力の社会的効果は依然として限られており、クロシドライトの環境曝露も深刻である。農村住民は十分な予防意識に欠け、クロシドライト製品の使用も未だ憂慮すべき状況にある。したがって、アスベストの健康被害の自然環境要因と社会環境要因を探り、農民のアスベストの危険に対する知識、態度、行動を適切に改善すべく介入すること、また、この領域における公共政策の提言、地域社会の健康増進を行うことは、非常に重要である。雲南省健康与発展研究会は大姚プロジェクト研究チームを設置して、2008 年 12 月から現在まで、大姚県のフィールドを何度も訪問し、疫学調査を実施している。

洱海漁村の変化に対する自然環境の影響の評価

—雲南省の漁村におけるケーススタディ

張學會（雲南省健康与発展研究会）

主な内容：

1. 大理の紹介（自然地理学、歴史、社会経済—図表、ホットな問題—住血吸虫症の制御等）
2. 洱海とその自然環境変化の状況（図表）
3. 環境の洱海水産資源に与える影響（魚と漁獲量の状況、マキガイの変化）
4. 漁村の直面する困難と出口（YHDRA の村落の実証調査における健康と漁民の生業を主に。その他の類似研究の成果を参考に）